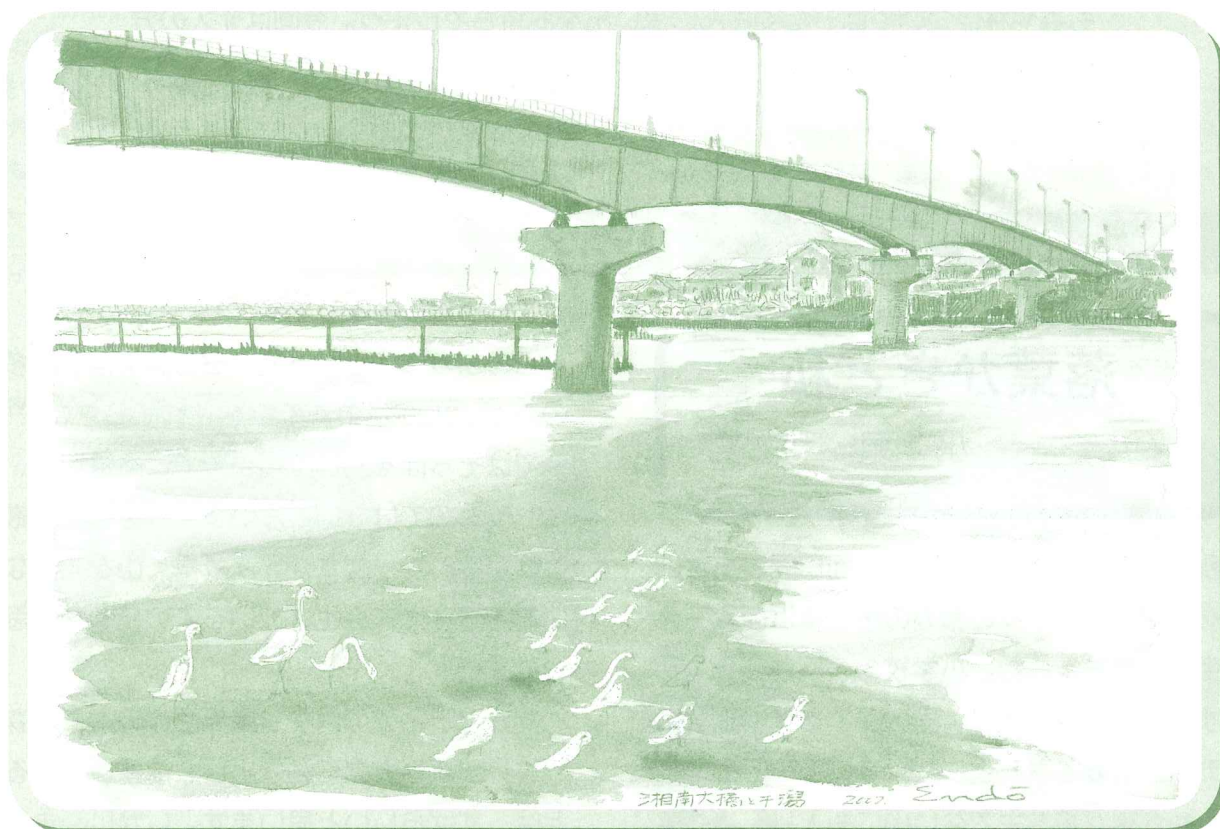


あじえんだ

第9号



(絵:「湘南大橋と干潟」遠藤光胡)

《も く じ》

- テーマ随想「私と森のかかわり」2
 - ・落葉かきと私 小泉 利男
 - ・道志の水源林を守って 水越 茂広
 - ・新人時代の迷い 安富 芳森
 - ・森の恩恵とダメージ 山地 渉
- 2002年度定期総会報告 アジェンダ実践活動の方向性を確認6
- 流域ウォッチング⑦ 博物館・美術館・資料館8
- 上下流交流事業報告 大月市扇山に2200本のヒノキ根づく10
- ツアー&ウォッチング報告 清流にホテルの舞う里/都留市小形山を訪ねて11
- 流域活動報告12
 - ・めだかと共に11年、これから… 勝保 源一
 - ・河川水質の向上、保持を旨として 高座地区河川をきれいにする会
- シリーズ 生き物たちの語る相模川5 「オニグルミvs.アカネズミ」 浜口哲一 ... 14
- 流域紀行「茶壺道中」 15

《テーマ随想》

私と森とのかかわり

森を見て心が和むのは、人類進化の舞台が森林だったからだといいます。子どもころに遊んだ裏山や鎮守の森、仲間と分け入った深い森…。どなたも森や林については、たくさんの思い出をお持ちでしょう。今回は4人の方に、森とのかかわりについて書いていただきました。

※掲載は順不同です。

落葉かきと私

小泉利男

私は秋祭りのよく似合う、一面田圃^{たんぼ}と小さい山を背にした、木々の繁みの多い横浜の片田舎で生まれ育ちました。小学校のころから、人と接するより農家であり、男の子であり、家事に私の手が必要とされました。冬の手前ともなれば、わが家が持ち主でない山にも入り、よく落ち葉かき（拾うことよりもっと仕事の、集めることに力を入れている）をしました。

今とちがってガスもなく、電気も十分でなかったので、この落ち葉が冬を越す重要な火種（火付材）でしたので、その時期になりますと何日も、大きなカゴを背負っては集めに行きました。特に松葉のまじった落ち葉はすぐ火がつき、火力も十分でした。

このようなことから、近くの山はいろいろな人が入るので、下草が刈り込んであり、きれいで落ち葉も集めやすく、今のようにポイ捨てなどをやる人は、一人もいませんでした。今思う

と、なつかしい限りです。

このような山を知っている自分には、今多くの森が、人が途中まで手を入れておきながら、今ではそっぽを向いてしまっている状況は、許されるものではないと思います。世の中の厳しい事情はわかりますが、より早く山を元気な姿にすることは、今生きている人の使命だと思うのです。

ボランティアの力なり関係団体の力で、森林づくりがよい方向に動き出し、前進していることは、すばらしいと思います。しかし、まだまだかけだしたばかりだと思います。多くの森林が助けを待っています。森の木々の枝下ろし、間伐、下草刈りが進み、山の保全を人間の総合力で進め、山の清水の保水力が増すことが何よりも必要だと考えています。

きれいな水を次の世代に引き継いでいきたいとした桂川・相模川流域協議会の市民部会に入って、先輩諸氏のいろいろな話を聞きながら、一層の重みを感じているところです。

やや議論の多すぎるきらいもありますが、川を通じて海へ、海を通じて森へ、この循環を見守りながら、皆さんと行動を共にし、さらに会



の発展を目指したいと思っています。

(横浜市 市民)

道志の水源林を守って

水越茂広

緑と清流の道志村で育った私は、縁あって横浜市水道局に入局し、市内の営業所や道志川から水の取入れをしている青山水源事務所に勤務しました。昭和55年再び道志村に戻り、現在の職場である水源林管理所で横浜市の所有する2,800ヘクタール余の広大な水源林の管理、経営に当たっています。

もともと林業の専門ではなく、子どものころから野山を駆けずり回って得た少しばかりの知識では知れたものです。それでも先輩の「水づくりは森づくりから」の指導のもと、水源林の奥地に入り樹木の名前や焚き火の燃やしかなど「山男の鉄則」や、大自然の厳しさと、その

大切さを享受することになりました。

森林の育成は、四季折々その季節に合った仕事があります。

私たち、水源林管理所は所長以下9名で、水源林管理の計画、設計や委託した仕事の監督がおもな業務となっていることから、山に入る機会も多く、危険を伴うこともあります。

山で昼飯どき、弁当を広げて食べ始めたときに、近くで異様な物音。「クマだ」の声で、昼飯もそこそこに一目散に下山したこと。また、歩いて行く先にマムシがとぐろを巻いているなんてことも少なくありません。

大雨のあと、沢の浮き石に乗って転倒したり、「山男の鉄則」にもないことも起こり、ちょっとした油断が重大事故につながりかねませんが、長年の経験を生かして大自然の懐で「緑のダム」づくりのために奮闘しています。

道志村は降水量が多く、豊かな森林に育まれたその水質はきわめて良好で、すぐれた水源地です。水源かん養林は世界の船乗りたちに「赤道を越えても腐らない」と賞賛された道志川の

河川水質の向上 保持を旨として

高座地区河川をきれいにする会

この会は、昭和43年5月29日に綾瀬市・海老名市・座間市・寒川町の3市1町において、排水の水質保全の重要性を認識している事業所が集まって発足したもので、事務局は市・町に持ち回りで受け持っていていただいております。

この地域内の川は、3市1町を縦断して流れている目久尻川を始め、鳩川・貫抜川・永池川・小出川・蓼川およびその支流で、その地域の西側を相模川が流れています。

会の活動としましては、排水処理に関する事柄や、河川の水質向上・保持および美化にかかわる事柄を実施しています。

その内容は、河川美化街頭キャンペーン・河川パトロール等の美化に関する事業的なものと、研修会等の会員に対する排水処理、および水質向上・保持に関する研修的なものに大別されます。

対外的な事業として、昨今事業系排水と並んで生活排水による水質汚濁が問題となっていることから、駅などでの河川美化街頭キャンペーンを、河川への不法投棄による環境悪化等をふまえ、相模川や目久尻川などでの河川パトロールを、毎年1回行っています。

また研修会等を行うことによって環境保全に対する認識および研鑽を図り、日常業務への活用を目指しています。

今後の課題としては、油等の流出事故に見られるような作業ミス、それを処理する際の処理ミス等、作業現場での水質汚濁にかかわる認識の向上であります。

また近年の経済状況の低迷から事業所の集約等による加入会員の減少傾向が出ており、加入推進を会員相互において鋭意努力しているところで



住民の公害に対する認識が年々きびしくなってきたおり、大気汚染と並んで水質汚濁は重要な課題となっています。

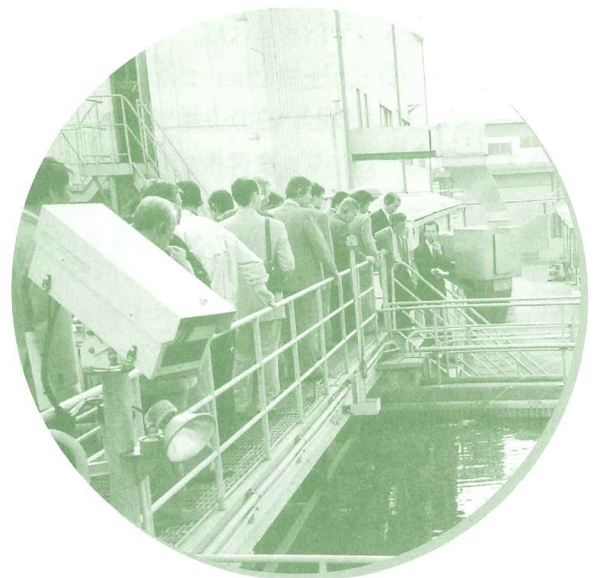
河川の改修においても、水を流すだけでなく、自然環境の保全や復元をとという環境主体の方向に社会が向きつつあります。

それらをふまえて、植物や動物の連鎖などに対する人の関わり方を、環境という視点から見つめ直す時期にきていると思われます。

発足以来34年、ますます必然性が高まる公害防止に向けて邁進いたしたいと考えておりますが、本会に対するご支援・ご指導を賜りますれば幸いと存じます。

現在の会員数 正会員 94 (事業所)

特別会員 4 (市・町)



森の恩恵とダメージ

山 地 渉

以前、ダイビングの仕事にかかわっていたときに「魚付林」の本を読みました。北海道のある岬の松林を開発によって切ったしまったら、岬の下の漁場で魚や貝が採れなくなったということです。林が日陰と落ち葉を海に落としていたと書かれていました。

<そのときはああそうかと納得>

…いい話だなという程度

私が通常潜っていた水深30メートルくらいまでの海中は、陸上の変化を特に大きく敏感に受けております。太陽光線が届き、川によって流れ込む多くの恩恵とダメージが溜まります。そして、その浅い海は陸上で生活しているわれわれにも、多くの恩恵とダメージを返してくれるのです。潜っているとよくわかります。

<だから海洋深層水なのかと納得>

…良いところだけつまみ喰い?

いま私は大月に住んで10年になりますが、近所の山と川と人に支えられながら、家族4人と1匹(犬)で楽しく暮らしております。現在扇山管理委員としてたまに山に入り、作業をした後のピールの美味さが病みつきで、7年間も委員をやっているのです。

扇山でもそうですが、犬の散歩が好きで(私と犬の健康のため)森の中を歩くといろいろな表情をした森林・草花、空き缶・空き瓶に出会います。趣味の溪流釣りで沢を歩くと、素晴らしくきれいな水と、そこに住む^{やまめ いわな}山女魚や岩魚、砂防ダムや廃棄物に出会います。

大月市には87%という豊かな森林を含めて自

*注:

MOTとは、未来大月ツーリズムの頭文字。



然環境がいっぱいありますが、まだまだ活用も保全もできていないのが現状でしょう。観光事業としても、環境保全としても。

<だから森づくりをしなくてはと納得>

…だれがどう考えてもそうでしょう。

私は2年前からMOT*という任意団体で、大月の活性化をめざして活動を続けていますが、皆さんとの連携が新たな思い出と実績を生めば良いなと思っております。

「ものより思い出」というCMが好きです。どんどん交流の輪を広げて、みんなで楽しく遊んで思い出を作りましょう。その思い出が新しい意識を生むはずです。今後も皆様方のご指導をいただければ幸いです。

(大月市 市民)

●解説「魚付林」について

「豊かな森林が湖や川、海にすむ魚をはぐくむ」——山の落ち葉や動物の遺骸が川に入り、川の生きものを育てながら流れ下る。食べ残りはバクテリアによって分解され、生じた栄養物質は植物性プランクトンをふやす。バクテリアや植物プランクトンは動物性プランクトンのえさになり、動植物プランクトンは川や海の魚介の稚魚を育てる。無数の稚魚が育たなければ、それをえさに生きる魚たちは健康に暮らせない…。

私たちは、川の落ち葉や海の魚はよく目に入るけれども、その間に微少な生きものの世界が介在してはじめて、豊かな自然が成り立つことまでは、なかなか気づかない。海の魚介類と山の緑とは一見なんの関係もなさそうだが、自然界ではすべてのものが有機的に、密接につながっているのである。私たちはいま、林の速やかな回復とともに、ダム、堰などの健全なありかたについても、考え直す必要があるだろう。

アジェンダ実践活動の方向性を確認

——村上嘉昭氏が「日本の川と人々」を講演——

2002年度の事業計画等を協議する定期総会が6月1日（土）に“ソレイユさがみ”で開催されました。総会に先立って行われました講演会の様子をまじえながら、報告します。

講演会……………

フォト・エコロジストの村山嘉昭さんから「日本の川と人々」の演題で、スライドショーをまじえながら一時間ほどの講演※が行われました。全国各地を飛び回り、子供たちの生活の中に川がどのように深く関わっているかを探し回り、撮りまくった数多くの写真のエッセンスをスライドで見ることができ、また子供たちからじかに取材した話を聞くことができました。飽くなき「川ガキ」（川で遊ぶ子供）の追究者村山さんを知り、こうした素晴らしいメンバーが協議会の担い手であることを気づかせていただきました。

かつて当協議会の市民部会で活発に発言していたメンバーでもあった村山さんの人となりを知る“コープやまなし”の山本豊美さんより、「一緒に協議会で活動していたころから比べると、川ガキを通して、川の専門家として成長されて頼もしく感じました」とエールが送られました。

※なお、講演会録は当協議会のホームページにて紹介する予定です。

総会議事……………

《2001年度の事業報告と収支決算書》

岸川司会が規約に則り、総会の開会宣言をし、次いで、定期総会の議長には、会場から山梨県の篠田授樹さん（都留市・市民）が選出され、議事が順調に進行しました。まずは、はじめに議案第1号「2001年度事業報告」と「2001年度収支決算」が事務局の説明後、拍手で承認されました。次いで、監事石田幸彦さんより議案第2号「監査報告」で問題がないことを報告し、併せて、石田さんの個人的な意見として、以下の指摘が行われ

ました。その要旨は次の通りでした。

「本流域協議会が、日本各地の流域におけるローカルアジェンダの実践活動が遅々として進まないなかで、本流域協議会が進めている事業が先行している位置にあることを忘れないでいただきたいこと。

現在、専門部会などの話し合いなどのルールも次第に整いつつあり、こうした社会実験に試行錯誤はつきもの。上下流交流事業やシンポジウムのスタイルも整えつつあります。

各主体別部会の議事録を読ませていただきました。市民部会、行政部会、事業者部会ともに真摯に議論されていることが判りました。

市民部会では、ティーブレイク時間の発表会など、楽しく論議への工夫が行われています。行政部会では加盟している市町村間で桂川・相模川に対する依存度や関心に差があるためか、整合性が取れていないことなど、さまざまな課題もあるようです。事業者部会では、主体別の部会をやめて一つにするという意見も出ています。

また、評価の問題にふれ、“個々の行動を評価する”というものと、それぞれの行動の成果に対して環境がどのように改善されたかを評価するという考え方とがあることを指摘。新年度は“評価の方法”についても議論すべきだろうと思います。

なお、本流域協議会の2001年度収支・支出の決算報告について、併せて相模川湘南地域協議会および桂川東部地域協議会の収入・支出についても、それぞれ適性な管理がなされていることを確認しています。以上」

異議はなく、拍手で承認されました。

《2002年度の事業計画案と予算案》

次いで、事務局より議案第2号「2002年度事業計画案」と「2002年度予算案」の説明があり、会場からは異議なく、拍手で承認されました。

《アジェンダ21桂川・相模川について》

その後、専門部会担当幹事小宮昇さんより、アジェンダ21桂川・相模川について検討結果の説明があり、さらに「今後のアジェンダ実践活動に向けての検討について」の意見書が専門部会で合意がえられたので、その内容を6点に整理して、口頭で紹介されました。その要旨を以下に紹介します。

「今後のアジェンダ実践活動に向けての検討について」

- ① 行動計画が決まったもので実施事業（実施内容）欄の空欄になっている部分を埋めたらどうか。
- ② 毎年追加補足版を作成していったらどうか。
- ③ 行政担当部署に「アジェンダ21桂川・相模川」の内容の理解を促進し、参考文献として事業等に活用してもらう。



- ④ 行政の事業で市民参加ができるイベント情報は、ホームページと会報誌に情報を記載し、同時に情報入手も考える。
- ⑤ 6つの課題項目について、できれば最低一つずつ取り組むことができないか。
- ⑥ 本協議会以外の市民、市民団体の活用内容も記載したらどうか。 以上

ひとり通り上記の説明が終わったところで、会場からは、「行政の事業内容として、市民参加方式等がどの程度組み入れられているか、補足説明があると分かりやすいのではないか？」という質問があり、代表幹事の山梨県から「県と市町村とがどのように協力するかも重要であり、そうした背景

も含めて、もっと分かりやすく説明する努力をする、ということで受けとめたい」と回答がありました。異議なく、報告内容が了承されました。

《役員の選任と承認について》

議事の手順通り議案第4号「役員の選任及び承認について」に関して市民部会事務局メンバーの氏家雅仁さんから説明がありました。なお、紙面の都合上敬称略。

〔幹事〕 ①市民（10名）：＜山梨県＞河西悦子（※代表）、中村道子、長田五月、西依三徳＜神奈川県＞桑垣美和子（※代表）、小宮昇、牧島信一、八木 伸、倉橋満知子、熊沢峻子 ②事業者（5名）：東京電力（株）、笹一酒造（株）、横浜市水道局、国土環境（株）、ミヨシ（株） ③行政（9機関）：国土交通省京浜工事事務所、山梨県（※代表）、神奈川県、富士吉田市、忍野村、相模原市、座間市、寒川町、相模湖町 ④地域協議会（2団体）桂川・東部地域協議会（※勝俣藤久）、相模川湘南地域協議会（※赤羽興三郎）

〔会計〕 神奈川県

〔監事〕 市民部会（石田幸彦）、津久井郡森林組合（天野堅二）、西桂町（滝口武司）

〔事務局※〕 ①市民：氏家雅仁、小西一郎、松川義彦 ②行政：山梨県（武井篤美） 神奈川県（菊地俊行、椎橋文雄、千葉礼子） 以上

なお、総会後の臨時幹部会にて、代表監事の選出、および事務局員の新体制について協議することも報告され、異議なく上記役員は承認されました。また、地域協議会の代表も総会後のそれぞれの地域の会議で決定されました。（なお※印は総会以降に決定された内容です）

総会の議案は以上をもって承認を受け、会場からの拍手で終わることができました。

（幹事 牧島信一 市民）

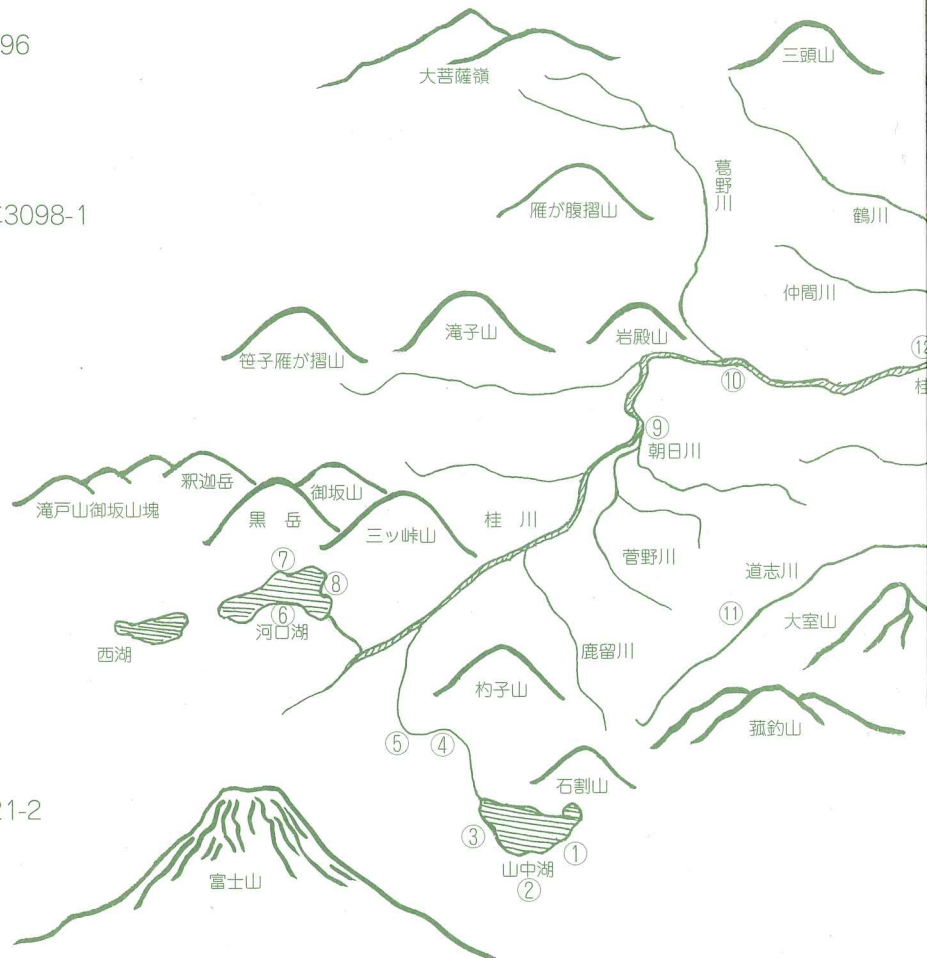


流域ウォッチング⑦

博物館・美術館・資料館

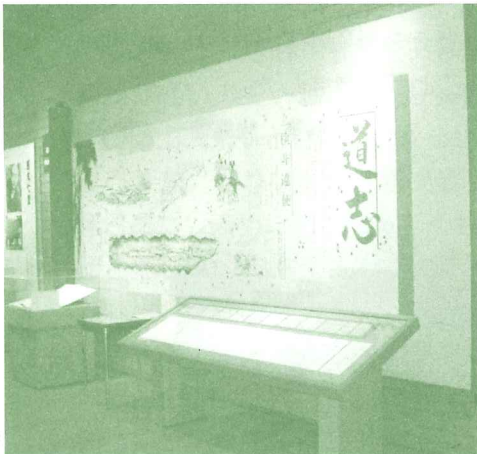
《施設名・所在市町村・電話》

- ①山中湖美術館
(〒401-0502 山梨県山中湖村平野493-81
0555-62-0793)
- ②山中湖文学の森
(〒401-0502 山梨県山中湖村平野506-296
0555-20-2655, 2633)
- ③山中湖高村美術館
(〒401-0501 山梨県山中湖村山中208
0555-62-0001)
- ④県立富士湧水の里水族館
(〒401-0511 山梨県南都留郡忍野村忍草3098-1
0555-20-5135)
- ⑤富士吉田市歴史民俗博物館
(〒403-0005 富士吉田市長吉田2288-1
0555-24-2411)
- ⑥河口湖ミュージアム
(〒401-0302 山梨県河口湖町小立923
0555-72-5258)
- ⑦久保田一竹美術館
(〒401-0304 山梨県河口湖町河口2255
0555-76-8811)
- ⑧河口湖美術館
(〒401-0304 山梨県河口湖町河口3170
0555-73-2829)
- ⑨ミュージアム都留
(〒402-0053 都留市上谷1-5-1
0554-45-8008)
- ⑩大月市郷土資料館
(〒409-0014 大月市猿橋313-2
0554-23-1511)
- ⑪ギャラリー水源の森
(〒402-0200 山梨県南都留郡道志村5821-2
0554-52-2672)



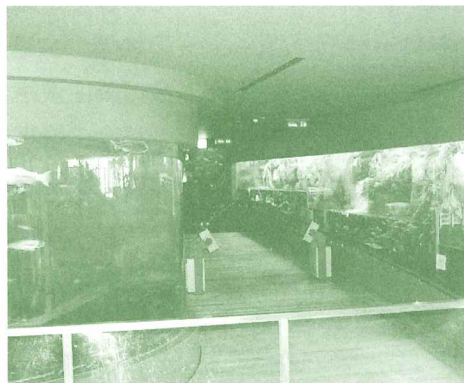
⑪ ギャラリー水源の森

美しい清流道志川の流れる「道志村」の歴史・生活文化などを紹介。ギャグ漫画で活躍された富永一郎氏の原画が常設展示。



⑨ ミュージアム都留

都留市を代表する「八朔祭」で引き出される屋台や、城下町として栄えた谷村の様子などをわかりやすく展示。



④ 県立富士湧水の里水族館

二重回遊水槽、湧水水槽などに、大小淡水魚と水生昆虫が展示。水中・水上カメラでの観察コーナーやシアターホールあり。

⑱ 県立宮ヶ瀬

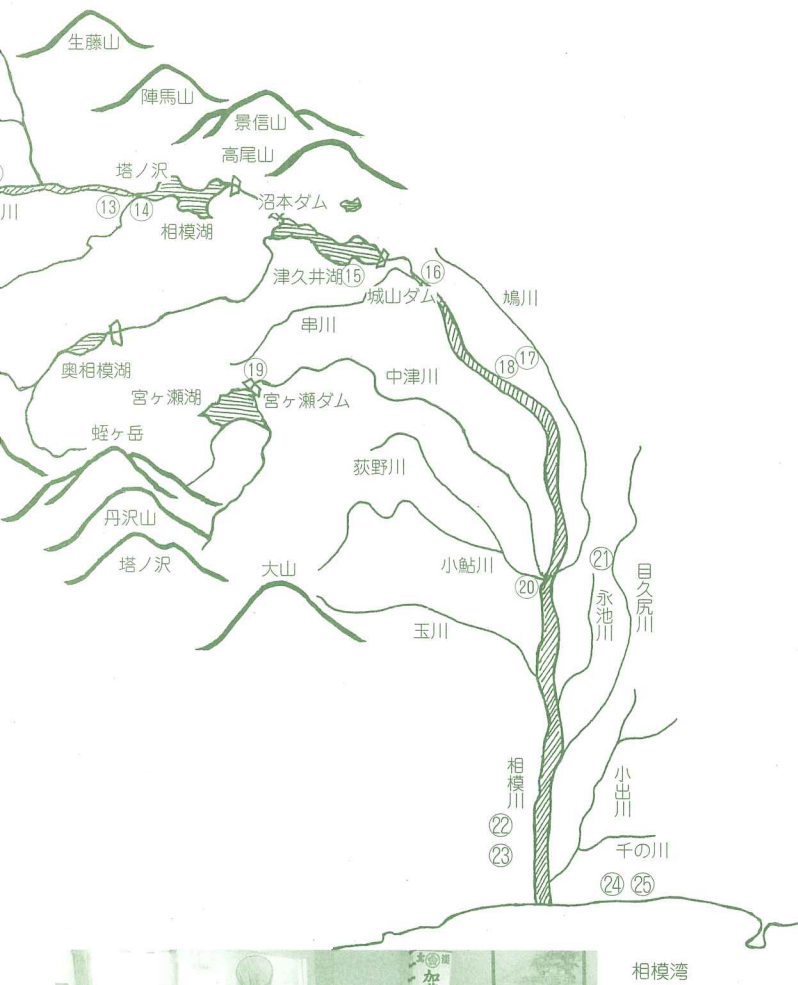
ビジターセンター

「丹沢大山の自然」を解説する小さな博物館。木の实を使ったクラフト教室、ミニ観察会、自然教室などを開催。



⑱ 相模川ふれあい科学館

淡水魚を中心とした水族館及び、川に関する科学館。テーマは、「川の科学、川の生命、川の技術」。この3つの側面から相模川を紹介。



⑳ 平塚市博物館

「相模川流域の自然と文化」をテーマとし、地域に密着した親しみやすい視点での展示。

- ⑫ 上野原美術館
(〒409-0112 山梨県上野原町4305 0554-63-0031)
- ⑬ 藤野・ふるさと芸術村
(〒199-0292 神奈川県津久井郡藤野町 0426-87-2111/藤野町役場)
- ⑭ 和竿美術館
(〒199-0206 神奈川県津久井郡藤野町牧野3939 0426-89-2268)
- ⑮ 津久井郡郷土資料館
(〒220-0207 神奈川県津久井郡津久井町中野1681 0427-84-2231)
- ⑯ 神奈川県・内水面試験場
(〒299-1135 相模原市大島3657 042-763-6254)
- ⑰ 相模原市立博物館
(〒299-0021 相模原市高根3-1-15 042-750-8030)
- ⑱ 相模川ふれあい科学館
(〒299-1124 相模原市田名91-2 042-762-2110)
- ⑲ 県立宮ヶ瀬ビジターセンター
(〒243-0111 愛甲郡清川村宮ヶ瀬940-15 046-288-1373)
- ⑳ 厚木市郷土資料館
(〒243-0003 厚木市寿町3-15-26 046-225-2515)
- ㉑ 海老名市立郷土資料館海老名市温古館
(〒243-0405 海老名市国分南1-19-36 046-233-4028)
- ㉒ 平塚市美術館
(〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3 0463-35-2111)
- ㉓ 平塚市博物館
(〒254-0041 平塚市浅間町12-41 0463-33-5111)
- ㉔ 茅ヶ崎市文化資料館
(〒253-0055 茅ヶ崎市中海岸2-2-18 0467-85-1773)
- ㉕ 茅ヶ崎市美術館
(〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸北1-4-45 0467-88-1177)

上・下流交流事業<植林体験> 大月市扇山に2200本のヒノキ根づく ――5月25日、大月地区植樹祭に合わせて――

5月25日、新芽が初々しい中、山梨県大月市鳥沢扇山において、約100名が参加し植林体験を実施しました。

当事業は流域の森林を守り水を育むため、また川の水源の元となる森林に対する理解を深めるため、毎年実施されてきたところではありますが、今回は、大月地区緑化推進会議、西山扇山部分林管理委員会、大月市との共催による「大月地区植樹祭」と連携し、当協議会や地元の中学生も参加しました。

今年は、森林の保水能力が高く、高貴な香りで定評のあるヒノキの苗2,200本を各団体が分担して植林することとなり、例年同様、和やかで有意義な交流事業になりました。

この事業を実施するにあたり多大なご協力をいただいた西山扇山部分林管理委員会の皆様、スライドで富士山の生態について詳しくご説明いただいた富士山ボランティアセンターの志村さん、ほか多くの方々に、厚くお礼を申し上げます。

(事務局・山梨県)

扇山山麓にヒノキを植える

熊谷 松浩

今年の植林作業体験は、5月25日（土）、五月晴れの日に、大月市鳥沢地区の扇山山麓で行なわれた。参加者は神奈川県から約八十名、山梨県側は、大月地区を中心に約二十名。この他には地元の中学生も多数参加されていた。

途中道路の渋滞もあって、私たち横浜から乗ったバスが会場に着いたときは、植樹祭のセレモニーが始まっていた。この場所は、扇山ハイキング鳥沢側コースの途中で、通称梨の木平という。何度か通った見覚えのあるところであった。

植樹の場所はここからさらに少し上ったところで、すでに下草が刈り取られ、植える位置を示す棒が立てられてあった。一班25名ほどに分かれて、スタッフの方から植え方の指導^{くわ}があって、鍬で穴を掘り、ヒノキの苗を植えていった。

私は今回で3回目の参加であるが、植える地面の傾斜が緩いので、思ったより楽に作業ができた。今度扇山へ来るときはどのくらいに成長しているだろうか。枯れないで活着するように、今夜か、明日あたり適当に雨が降ってくればよいが、などと思いながら作業を終えた。今日の植林は約2200本とのことである。

昼食時には地元のご婦人方によって、温かい豚汁のサービスがあり、例年のように笹一酒造から、酒造用井戸から汲み上げた、おいしい水が振舞わ

れた。

昼食後、車で富士山麓の山梨県環境科学研究所へ移動して、構内の自然観察路を案内してもらい、ホールで富士山の環境問題について、スライドを使ってお話をお伺いした。

この行事の感想として、植林体験とは別にもっ



と植林作業を主体とした、時間も1日、3~4時間ぐらいの作業を実施してはどうか。

また、樹種も今回はヒノキであったが、保水力があり、たくさんの動植物が共生できる広葉樹を植えてはどうかと思う。地元会員の方からハーブ詰合わせを、お土産として全員に頂いた。末筆ですが感謝申し上げます。

(横浜市 市民)

清流にホテル舞う里

6月29日、都留市小形山を訪ねて

●コース ツアー＆ウォッチング (田野倉駅→舟場橋→尾県郷土資料館→一の瀬橋→熊峠→川茂→二ヶ堰用水跡→リニアモーターカー実験センター→郷土資料館) +ホテル観察会

富士急行線の田野倉駅を出て国道139号線を横切ると、ほどなく谷合にかかる舟場橋に出る。釣り人が竿を垂れる桂川の流は橋の20メートルほども下。舟場八景の名に恥じない眺めである。かつては吊り橋がかかり、さらに昔は渡し舟が兩岸の生活と結んでいたとか。たたみ数量分もの巨岩は、水が豊かだったころの急流の姿を思い起こさせる。

道すがらの小形山の集落では、熟れた梅の実が道路にまで零れ落ちている。道路わきの水路の水はそのまま飲めそうなほどである。

明治時代の小学校だったという尾県郷土資料館に立ち寄る。大正、昭和のころの教科書や民具などが展示されている。明治のころのハイカラな疑似洋風建築で、1世紀前のこの地の豊かさを伝えているようだ。ここでマイカー参加組と落ち合い、昼の腹ごしらえをして、いよいよ出発だ。案内役は協議会メンバーの篠田授樹氏である。

中央高速道をくぐり、高川沿いの道を進んで、夕刻からのホテル観察予定地を過ぎる。のどかな田園風景と不似合いなコンクリート護岸の水路は、上流のゴルフ場の開発に合わせてつくられたものとか。でもホテルのために、水路と平行してもとの流れを保存してあると聞き、小さな生き物への地域の方々の思いが伝わってくる。

やがて道は左へ折れて、小さな峠に続く。登りきった熊峠は、富士山と桂川が一望できる展望スポットだ。名峰はあいにく雲の中だったが、眼下には名勝川茂の堰堤が広がる。春には桜の名所となり、ヤマセミやカワセミの観察スポットだという。傍らに建つ川茂発電所は、わが国の水力発電黎明期の花形であった。1世紀の年月は、ダムのひとつを土砂で埋め尽くしていた。

川茂から桂川左岸の道を下ると、中央高速道が広がる。中央道の近くには200年前に築かれた二ヶ堰用水の跡がある。地元篤志家の徳兵衛が私財をなげうち、2年余の年月をかけて桂川の水を灌漑



用に引いたものだ。

高速道路やリニアモーターカーの実験施設など、巨大建築物の陰にうずもれてしまった古い用水の名残であるが、粗末な道具を使い、皆で力を合わせて築いたであろう水路の流れに、人々はどんなに歓喜したことか。往時の彼らの心中を思うとき、「科学技術の発達がいま、私たちの幸せのために、果たしてどれだけ役立っているのだろうか」と、改めて考えさせられてしまう。

JRのリニアモーターカー実験センターを見学して、ツアー＆ウォッチングはひとまず終了である。

尾県郷土資料館協会の皆さんの、心づくしの夕食をいただいたあと、本日のジョイント・イベントのホテル観察に向かう。あいにく小雨が強まり出した。ゲンジボタル出現ポイントの高川二の瀬橋付近で待つことしばし。傘を片手に、恋人を待つ思いである。

あたりがすっかり暗くなったころ、「あ、光った」「いるいる、こっちへやってくる」…時間がたつに連れて、恋人たちは次々と数を増やし始めた。道から離れた川沿いの百メートル余りを加えると、その数200頭ほどが姿を見せたのだろうか。風の吹く日には決して現われないホテルが、小雨の中ならば平気で飛びまわるしたたかさ——も、はじめでこの目で確かめることができた。(A)

めだかと共に11年、 これから…

勝俣 源一

明見湖あすみこという小さな湖が富士吉田市内にあります。富士山が作った湖ですが、富士五湖の中には含まれず、人に忘れさられたように、ひっそりとしたところにあります。

20年ぐらい前は、小魚やトンボなど、たくさんの種の生きづくところでしたが、ここ10年ほどは、単純相で多くの生き物が見られなくなりました。湖も自然も少しずつ何かが変わってきているのでしょう。地球の温暖化とも関係あるのかも知れませんが、子どもころ、あたり前に見ていた自然が消えてしまうのはなんだかさみしい気がして、めだかの学校を細々と続けています。

ここ5~6年は、農業（水田）とめだかの関係を見つめるべく体験活動を行いながら、湖周辺の整備を進めています。なかなか前に進めず、一歩進んで、二歩さがっているようで、昨年地域の人達と作った公園も、この夏は草だらけになってしまいました。

それでも、また今は、きれいに整備されていますが、今後管理面での問題もでてくると思われます。1つの事業を進めると、始めるときは、パッと花火のような感覚で一時的に盛りあがっても、それからのつみかさねは地味なものに変わり、長くつづけると、マンネリズムにもおそわれ、その精神力を維持するのも大変なことです。

この地域でも季節ごとに、小さな祭りがだんだん消えて、人々の心のきずなも希薄になって、行事や伝統を守ることもさえむずかしくなってきました。また、日一日の生活が大変な中に、環境や自然に目くばりする余裕さえなくなっているのが現実だと思います。だから私は、むしろこの地域にこだわって「めだかの学校」を名のり、いろいろな事業を展開していきます。



今年、この小さな湖、明見湖にヨットを浮かべて、風を感じる体験を行ったところ、大好評でした。ヨットに乗って何を感じるか？水のこと、風のこと、周りの景色等々、どれでも感じて欲しい思い、蓮はすの中をヨットが進んだときは感激してしまいました。——この湖に小魚の群れの中をヨットが浮かぶ、近い将来にそれを願っています。

一方、湖の整備のに関連して里山の環境保全も少しずつ始めていますが、資金もなくこれまた大変です。やっと見つけた資金で、草刈り鎌を買って藪刈りをしたところ、鎌の刃がボロボロになってしまいました。多数の人に教えながらですから、仕方ないことですが、やらなければならず、いざやれば道具が使いものにならず——です。それでも少しずつ少しずつ進めてゆかねばならないと思っています。

一歩進んで二歩さがっても、最初は一歩があつての後退ですから、それはそれで良しとして、何もしなければ何の変化もなく、ずるずると時間の波にのまれてしまうでしょう。

めだかが住める湖の復活再生をめざして始めた「めだかの学校」は、来年には大学受験の年になります。1つの大きな節目のときを迎える年頃になりましたが、マイペースで、あせらず、ゆっくりとやってゆきます。

（「めだかの学校」代表）

河川水質の向上 保持を目ざして

高座地区河川をきれいにする会

この会は、昭和43年5月29日に綾瀬市・海老名市・座間市・寒川町の3市1町において、排水の水質保全の重要性を認識している事業所が集まって発足したもので、事務局は市・町に持ち回りで受け持っていていただいております。

この地域内の川は、3市1町を縦断して流れている目久尻川を始め、鳩川・貫抜川・永池川・小出川・蓼川およびその支流で、その地域の西側を相模川が流れています。

会の活動としましては、排水処理に関する事柄や、河川の水質向上・保持および美化にかかわる事柄を実施しています。

その内容は、河川美化街頭キャンペーン・河川パトロール等の美化に関する事業的なものと、研修会等の会員に対する排水処理、および水質向上・保持に関する研修的なものに大別されます。

対外的な事業として、昨今事業系排水と並んで生活排水による水質汚濁が問題となっていることから、駅などでの河川美化街頭キャンペーンを、河川への不法投棄による環境悪化等をふまえ、相模川や目久尻川などでの河川パトロールを、毎年1回行っています。

また研修会等を行うことによって環境保全に対する認識および研鑽を図り、日常業務への活用を目指しています。

今後の課題としては、油等の流出事故に見られるような作業ミス、それを処理する際の処理ミス等、作業現場での水質汚濁にかかわる認識の向上であります。

また近年の経済状況の低迷から事業所の集約等による加入会員の減少傾向が出ており、加入推進を会員相互において鋭意努力しているところで



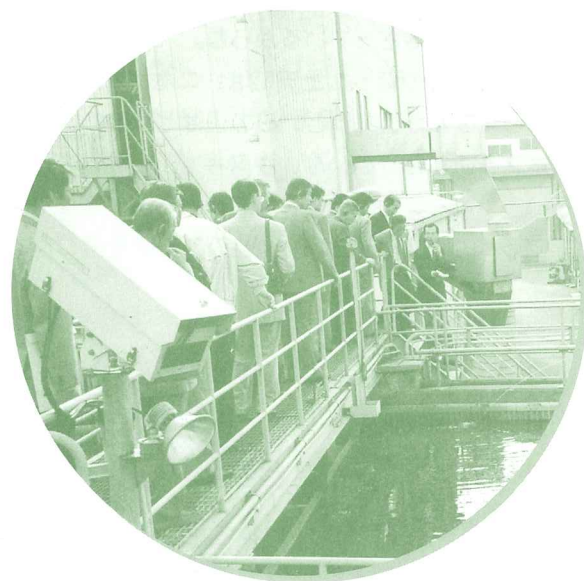
住民の公害に対する認識が年々きびしくなってきたおり、大気汚染と並んで水質汚濁は重要な課題となっています。

河川の改修においても、水を流すだけではなく、自然環境の保全や復元をという環境主体の方向に社会が向きつつあります。

それらをふまえて、植物や動物の連鎖などに対する人の関わり方を、環境という視点から見つめ直す時期にきていると思われます。

発足以来34年、ますます必然性が高まる公害防止に向けて邁進いたしたいと考えておりますが、本会に対するご支援・ご指導を賜りますれば幸いと存じます。

現在の会員数 正会員 94 (事業所)
特別会員 4 (市・町)



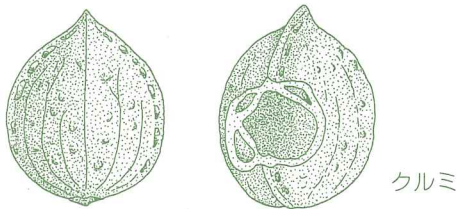
オニグルミ vs. アカネズミ

文・イラスト 浜口 哲一

オニグルミ：ああ、よく寝た。ここはいったいどこだろう。あれ、痛！僕をかじったやつがいるぞ。おい、だれだ。失礼なことをするのは。

アカネズミ：なんだ、起きていたのかい。うまそうなクルミの実があったからね、さっそくごちそうになろうとしたところなんだ。

オニグルミ：こいつは危なかった。油断もすきもならないな。



アカネズミ：ところで君はどこから来たんだい。

オニグルミ：ずっと上流の山の中さ。きれいな流れのほとりに僕の親木が立っていたんだ。春に花が咲いて僕らが生まれ、それから夏まで兄弟で枝にぶら下がって育ったんだ。秋になって、大風が吹いて・・・、それから記憶がとぎれているんだよね。

アカネズミ：どうせ川に落ちて、そのまま流されて来たんだろ。それにしても、よくも河口近くまで流れてきたね。

オニグルミ：そうか河口に近いのか。なんか山の中とは匂いが違うと思ったよ。

アカネズミ：潮の香りも少しするだろうし、自動車とか工場の匂いも混ざっているからね。

オニグルミ：僕の育った上流には、ニホンザルとシカとかいろんな獣がいたけど、この辺はどうなの。

アカネズミ：獣は少ないな。タヌキが少し住んでいるくらい。それと、モグラはけっこういるし、夜になるとアブラコウモリがたくさん出てきて空を飛び回るよ。

オニグルミ：上流には、木登りの上手なヒメネズミとか、君のなかまも何種類かいたよ。リスとかムササビなんかも親戚なんですよ。

アカネズミ：そうか、ムササビさんに会ったことがあるのか。なにしろ空を飛べるっていうので、我々の仲間じゃ英雄だ。最近、困っているのは体の大きいドブネズミに会うようになったことでね。先行きがちょっと心配なんだ。

オニグルミ：ドブネズミっていったら野ネズミじゃなくて家ネズミでしょ。どうして川にも現われるわけ？

アカネズミ：ドブネズミは、名前の通りドブの周りにも多いのさ。人間がゴミをたくさん捨ててたり、川岸をコンクリートで固めたりすると増えてくるんじゃないか、僕はそうにらんてる。だいぶおしゃべりをしていたら、なんだか君は食べにくくなったよ。他のクルミを探すことにしよう。そのかわり、ちゃんと育てて大木になってくれよ。そのうちたくさん実をつけてごちそうするって約束だよ。

オニグルミ：まいいけど、実がなるのは何年先か、君が生きていればの話だね。

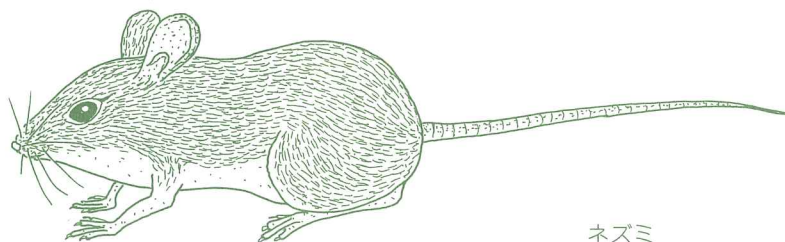
アカネズミ：にくたらしい奴だな。それじゃさよなら。

— 出演者のプロフィール —

オニグルミ：クルミ科の高木。上流部の林のほか、中下流の川原や土手にも多い。

アカネズミ：ネズミ科。尾を入れた長さが20cmくらいで赤茶色の野ネズミ。クルミが好物。

(平塚博物館学芸員)



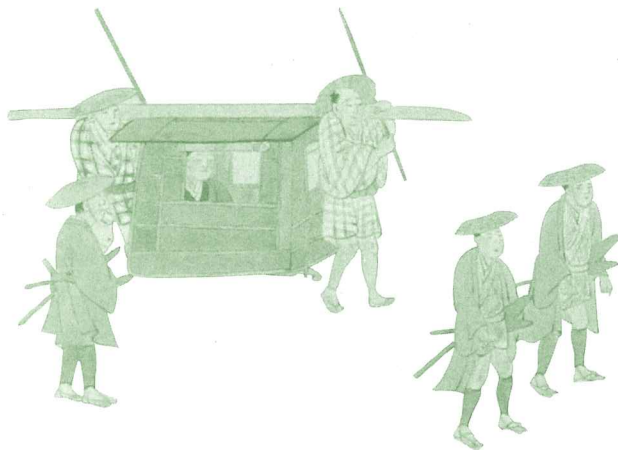
茶壺道中

将軍家御用茶は都留の地の
風水パワーで熟成された

「ずいずいっころばし ごまみそずい 茶壺に追われてとっぴんしゃん…」

有名な童唄であるが、この唄でうたわれた茶壺道中と都留市は、深い関わりがある。

将軍御用の茶を江戸城へ運ぶ「宇治採茶使」一行を「御茶壺道中」と呼ぶ。この採茶使の派遣は、慶長18年を初見とし、元和3、4年にも認められるが、茶壺道中が権威づけられ、大名でもあっても道中で茶壺に行き会えば、その通行を優先するというようになったの



は、徒歩頭かぢがしらが年番で宇治採茶使をつとめることが定められた寛永10年（1633）2月からとされる。

その往路は東海道を通り、帰路は中山道、甲州街道を経由したとされる。江戸時代中期以前は谷村やむらに立ち寄り、茶壺を秋元氏に預け、夏季の間、勝山城の茶壺蔵へ格納する例であった。

茶壺道中で運ばれた茶壺数は、年ごとに増減があったとされる。元禄2（1689）年、宇治から44荷かが運ばれ、このうち茶壺3個が江戸に直送され、残り41荷は谷村に保管された。（山梨県立図書館蔵「御茶壺諸事踏覚」）

このときの茶壺道中の総人数は162人で、このうち12人は御壺3個を江戸に運ばせるため、また、8人は乗物かづ担ぎのため江戸まで行くが、残りの142人は谷村任務は終了になったことが記されている。これは、茶壺の大部分が、勝山城に格納されたことを意味する。

茶壺道中は、春・秋2回おこなわれ、春には江戸を

たち、宇治で茶詰めをおこない、宇治から江戸直送茶と谷村格納茶に仕分けされて運ばれた。秋には、江戸と谷村を往復し、勝山城の茶壺蔵で夏の間熟成させた茶を江戸城に運んだ。

なぜ、勝山城に茶壺蔵が設けられ、保管されたのであろうか。

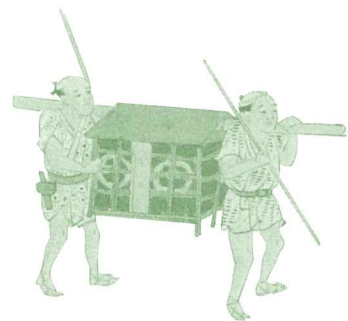
これまでは、勝山城に茶壺が設けられた理由について、江戸からさほど遠くなく、富士おろしの涼風を受けるなど、越夏保存に適している点が強調されてきた。

享保の改革で、勝山城での茶壺の保管が廃止となり、江戸城に直送されるようになったが、その保管場所は富士見櫓やぐらであった。

茶は、元々は長寿の薬として、日本に伝えられた。

富士の涼風には、不死の靈風が込められているという考えや、久龍山—富士山—日光東照宮は直線的に並び、この線上の勝山城も位置するという指摘など、勝山城と谷村が持つ特殊性なども議論される。

本年は、史実に忠実に、当時将軍家御用の抹茶を製造し



ていた宇治の上林家で、抹茶の原料てんちゃの碾茶を茶壺に詰め、その茶壺を「ミュージアム都留」において秋まで保管し、熟成した最高級の抹茶を製造。10月の最終日曜日の産業祭りには茶壺道中行列が再現され、メイン会場で催される茶会において、その将軍御用の抹茶が振舞われた。

（山梨県都留市役所 産業観光課）

“とっておきの桂川・相模川” 募集中!

—— 「流域の魅力再発見事業」 ——

私たちの暮らしを支えている桂川・相模川。
この流域には、まだまだたくさんの素晴らしい場所や
支流があります。

自然の美しさに感動した場所。

自然の不思議にびっくりした場所。

かけがえのない思い出のある場所。

休日に家族で楽しんでいる場所。

子供達が胸躍らせて虫捕りしている場所。

ひとりでひっそりと訪ねる癒しの場所。

名所でなくても、地図に載ってなくても、

ずっと大切にしていきたい。

そんな“とっておきの場所”を大募集!!

☆集まった情報は公開するとともに、流域の環境保全に
役立てていきます。

☆写真・スケッチに場所と推薦理由を添えて申込みして
ください。

締め切り 2002年12月末日

お問合せ・お申込み先 各県事務局へ

お知らせ

流域シンポジウムに参加しませんか。

森・川・海との 新たな交流・連携

～市民参加による流域の森づくりと 上下流域交流の促進～

と き 12月8日(日)

と ころ 大月市民会館(山梨県大月市)

内 容

大月岩殿山の森の散策 11:00～12:00

シンポジウム 13:00～15:00

・講演 塚本良則氏

「水源の森の歴史と今後について」

・パネルディスカッション

地域で森・里山に関わりながら活動して
いる方に語っていただき、その保全・創造を
考えます。

定 員 約150名(神奈川県からはバス送迎有)

主 催 桂川・相模川流域協議会

※参加に関するお問い合わせは、下記事務局まで

あなたも入会しませんか!

★市民年会費：個人会員 一口1,000円(一口以上)

なお、団体として加入される会員の方は、
二口(2,000円)以上でお願いします。

★事業者年会費：一口10,000円(一口以上)

<振込先>

郵便振替：振込口座 00220-5-10259

名 義 桂川・相模川流域協議会

銀行振込：振込口座 三井住友銀行横浜支店

普通預金 6825559

名 義 桂川・相模川流域協議会

代表幹事 桑垣美和子

編集後記

◆生物多様性の重要さはようやく認識され始めましたが、なぜ大事なのかとか、それが環境の多様性と一体不可分である点までは、なかなか理解されにくいようです。明日では遅すぎると思うのですが…。(A)

◆さらさらと流れる川にも似て、Kさんのやわらかな声がゆっくりとカワラノギクの上を渡っていく。このままでは絶滅の恐れがあるカワラノギクを探して歩き、発見した喜びを語る。相模川をいとおしむ人。何のものにも換えられないもの。

秋の日に、河原をゆく。流れに立つカカシを眺めながら。(K)

◆この担当になってから、最初の何ヶ月かは理解をしていない状態で携わっていたが、知るにつれ事の重大さが分かってくと、自分だけでなく広く知ってほしいと思うようになりました。

「川の命は自分の命」たくさんの方がこの冊子を読んで、理解を深めて頂けることを願いながら。(S)

◆当協議会の発展のため、多くの人々が、流域の他の地域の歴史や文化等も知り、事業への参加や協力を頂くとともに、ご意見をお待ちしております。(N)

◆今回の号の文字色を決めるのに編集会議でいくつかの色の案がでましたが結局究極の癒し色の緑になりました。緑って本当に心が癒されますよね。皆様がこの冊子を読んで癒されますように…。(C)

あじえんだ113

No.9 (2002.11.20発行)

発行 桂川・相模川流域協議会

編集 あじえんだ113編集委員会

事務局 山梨県大月林務環境部

〒401-0015 大月市大月町花咲1608-3

TEL(0554)22-7838 FAX(0554)22-7848

神奈川県環境農政部大気水質課

〒231-8588

横浜市中区日本大通1

TEL(045)210-1111 内4128 FAX(045)210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)